# 孝友

232
令和2年<2020年> | 早春号

人格という土台の上に　真の教養を創造したい者は　この門から入れ

# 第98回 全国高校サッカー選手権大会
# 全国優勝特集

写真提供 静岡新聞社

## 目 次

「静学サッカー部」ここにあり!!
～優勝・全国制覇までの軌跡とその後～　校長 鈴木啓之 …… 01-04
選手権に寄せて　選手コメント …… 05-06
静岡新聞記事 …… 07-10
選手名鑑 …… 11

# 「静学サッカー部」ここにあり!!

## ～優勝・全国制覇までの軌跡とその後～

静岡学園中学校・高等学校 校長 鈴木 啓之

**時代が平成から令和に変わったこの1年間を振り返って「静学」での最大のニュース・話題と云えば、やはり高校サッカー部の24年ぶり、そして初めての単独制覇・第98回全国高等学校サッカー選手権での優勝に尽きると思う。全ての戦いに全力で対峙し、一戦一戦自信とともに力を伸ばし、常にひたむきにボールを追う姿に感動を呼んだ「優勝までの軌跡とその後」をこの紙面を借りて追ってみたいと思う。**

## 全国大会対戦前の準備等

まずは、11月16日(土)の選手権県大会決勝。一昨年の選手権、昨年の新人戦・インハイと決勝戦敗退の準優勝に甘んじていた静学チームは、対富士市立高戦において縦横無尽に戦い6－1という圧勝のスコアで5年ぶりの選手権全国大会出場権を勝ち取った。早速11月下旬に後援会・PTA・サッカー部父母会等の関係者を集め臨時の会議を開催し、選手派遣および広報・応援体制について検討した。各団体のご理解・ご協力を得て、きちんとした支援体制を構築することができ、万全の体制で静学チームを全国大会に送り出すことができたと自負している。全国大会初戦を前に静岡新聞12月28日朝刊で『目指せ全国制覇！がんばれ静学イレブン』の特集を組んでいただいた。その中で校長として寄せた激励文を掲載したが、その文章をこの紙面にも紹介したい。

### 「自由で楽しい静学サッカーで頂点を目指せ」

「静学サッカー」は選手の自由な発想をベースに、スピードとパスワーク、個人技と組織力の融合が思いも掛けない展開を生んできました。それが見る者に楽しさと感動を呼ぶのだと思います。県大会でも存分にその力量を発揮し、勝利を勝ち取りました。全国大会でも、スタンドや TV 前で応援する生徒・教職員・保護者・同窓生そして県民の皆様の熱い声援をバックに、その自由で楽しいサッカーを披露してくれるものと信じています。

静岡県代表として「日本一」に向かって全力を尽くす静学サッカー部に益々の応援をお願い致します。

選手・監督コーチにエールを送り、併せて自分自身も鼓舞する気持ちでまとめたものであった。静学チームは、練習試合・事前合宿等を通して万全の準備を尽くして大会に臨むことができた。

## 全国大会本戦　経過

12月30日に開幕。翌31日に第1回戦対岡山学芸館高戦を迎えた。相手は2年連続3回目の出場を果たし、今シーズンの中国プリンスリーグを制した強豪校。出だしやや堅さが見られたが、先取点を奪うと動きが良くなり結果6－0の完勝であった。静学サッカーの展開が随所に見られ、選手個人もチームとしても“やれる”という自信を抱かせる内容であった。そこから決勝までの6戦、一つひとつ静学スピリット、静学らしさを発揮し、喜びと自信・熱意を醸成し、また周囲にも勇気そして闘争心を沸き立たせる見事な戦いぶりであった。24年ぶりの優勝へ期待とボルテージを高めつつ、1月13日の決勝戦を迎えたのであった。

私個人としても中学校入試当日となった11日の準決勝対矢板中央高戦は学校でのTV応援となったが、残りの5戦全てスタンドで観戦し、一戦一戦気持ちを高めながらの応援となった。そして、決勝戦。相手は今シーズンのプレミアリーグを制し2連覇の期待の掛かる絶対王者「青森山田高」。全身全霊を尽くしての戦いが始まった。この試合の経過は、初戦からの戦いを含め、サッカーマガジン2月号増刊（ベースボールマガジン社発行）にサッカージャーナリスト国吉好弘氏が「大会総括」を寄稿しているので、その文章の一部を掲載したい。

前半戦終了間際まで 2 点のビハインドを負いながら、アディショナルタイムに 1 点を返すと、後半は猛反撃を展開して3－2と逆転。静岡学園（以下、静学）が、前回王者であり、今年度のプレミアリーグ王者の青森山田を下し、実に 24 年ぶりとなる優勝を果たした。前回の 1995 年度、第 74 回大会では鹿児島実との両校優勝で、今回初めて単独での日本一に輝いた。

定評あるテクニックに加え、安定した守備と決定力の高さを備えた今大会の静学は、準々決勝まで危なげなく勝ち上がった。準決勝では矢板中央の粘り強い守備に苦しんだが、後半アディショナルタイムに松村の突破から PK を得て1－0で勝利。準決勝まで 5 試合で 16 得点、無失点と攻守に安定した力を示した。

決勝の相手は百戦錬磨の青森山田。前半、やや消極的な試合運びからスキを突かれて 2 点を奪われてしまうが、ハーフタイムに川口監督は「中盤の 3 人の距離感が悪い。ボールを受けること怖がっている」とゲキを飛ばした。後半は小山が中盤に下がり、左サイドに交代出場の草柳が起用された修正も効いて、良い距離間でボールを受け渡しする本来のリズムが生まれる。ドリブルでも積極的に仕掛け、じわじわと青森山田の守備陣を追い込んだ。

61 分に今大会初先発の加納がバイタルエリアで草柳のパスを受け、素早く振り向きながら左足のクリーンシュートを突き刺して同点。85 分には井堀の正確な FK に中谷がヘッドで合わせ、3－2と逆転した。

168 センチと大柄ではないが最もテクニックがあり、静学を象徴するような存在の MF 浅倉は、「後半は自分たちのプレーができた」と振り返った。前半は激しいチェックにやや腰が引けていた選手たちが、勇気を持ってボールをつなぎ、強引なまでに仕掛けたことで静学本来の良さが発揮され、勝利を引き寄せた。

今年度の静学は「個を育てる」という井田勝通・前監督時代からの基本方針は変わらず、松村、浅倉をはじめ MF 井堀、藤田、小山、FW 加納など、誰もが高い技術を備える。さらに川口監督は「目を鍛えることで、判断力を磨いた」と、状況を把握して良い選択ができるように努めたことを強調した。これも例年、目指していることではあるが、習得に関して「今年度の選手は吸収力があった」と言う。その判断力が、例年であれば多くのチャンスを作りながらも決め切れない悪癖を解消した。個人技、パスワークに加え、判断力が高いレベルで身についたことで、ワンランク上の「静学サッカー」が展開され、大輪の花を咲かせた。

※引用文献：「第 98 回全国高校サッカー選手権大会決算号　サッカーマガジン 2 月号増刊」24 ページ　サッカーマガジン編集部　ベースボールマガジン社

5万6千人余の観客を前に、千人余りの生徒教職員と駆けつけた保護者・家族・OBの方々と40％越え（静岡地区）であったというTV放映での声援を受け、静学サッカーを展開し、ひたむきにボールを追って逆転勝利そして優勝を勝ち取ったスリリングな展開は正に感動を呼び、その姿は素晴らしいものであった。

## 優勝、その後

優勝直後から周り・関係者からの祝福の嵐、お目出度うコール・メールは途絶えることなくいただいた。「静学よくやったー」「感動した」「オメデトウ。素晴らしい」との内容。帰静してからの優勝報告、TV出演、新聞等のマスコミ取材と選手・監督コーチはまさしく多忙であった。お祝いの生花・胡蝶蘭も学校の玄関には並びきらないほど届けられた。県民・地域の方・関係者の喜びが伝わってくるようであった。15日に朝礼の形式で生徒諸君に優勝報告をした。その時の私の挨拶の概要を掲載する。

優勝おめでとう。本当におめでとう。そしてご苦労様。
君たちが素晴らしかったのは、第一に「静学サッカー」を表現しきったこと。自由で創造的なサッカー、ドリブル等の個人技をベースに磨き上げてきたショートパス、組織力を駆使し、静学スタイルを貫き通したこと。その上に勝利、優勝を勝ち得たところにあると思う。全国には、いろいろな戦術・スタイルで戦うチームがある。守備を第一に堅守速攻で勝負するところ、フィジカルをベースに早い寄せと 1 対 1 の凌ぎのチーム。ロングパス・ロングスローで勝負するところ。スタイル・戦術は様々である。こうした中で、ぶれることなく静学サッカーを貫き通したところに意義がある。これは、全国に「静岡サッカーの復権」を示すことに留まらず、ある意味で日本サッカー界に個を重視し、その上に確かな技術力と速さを身につけた静学サッカーの成果を、その可能性を、その魅力を知らしめたところにある。

第二に、君たちの全国制覇、初の単独全国優勝は、静学の校史に刻むそして燦然と輝く“金字塔”となった、と云える。この歴史的快挙、エピソードに当事者として居ることのできた我々、教職員・生徒諸君には感動を肌で味わう、直接実感するという素晴らしい贈り物となった。全国優勝した同時期に居合わせた仲間としてこんな幸福なことはない。同時に、サッカーに限らず、何事かに、そして何事にも挑戦する「勇気」をもらえた。本当にありがとう。

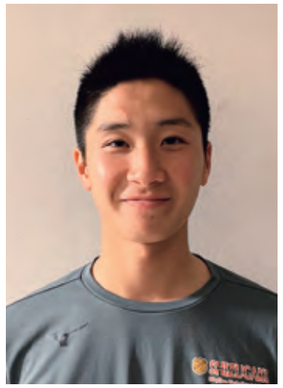


24年ぶりの、そして初の単独全国制覇は、正に素晴らしいことであった。戦い後の選手のきちんとした態度・姿勢が、その価値・評価をより高めている。生徒・教職員が、それぞれの試練・課題に向かう勇気、前に進もうという意欲の源をもらえた。このチャレンジングな気持ちを胸にそれぞれが前に進んでいってくれると考えている。

静岡学園中学校・高等学校は今年で創立54年目。草薙から移転し、高校を教養科学科1科に改編し「新！静学」としてスタートを切って9年。令和の新時代の幕開けの今年、静学の沿革歴史において記念すべき「全国優勝・全国制覇」となった。選手・監督はもとより、在校生・教職員そして本校関係者・静岡県民にとって、感動とともに語られる素晴らしい記憶の1ページになったと思う。

最後に、いろいろな方々にお世話になった。特に、全国大会出場に関しての協力金で、また優勝を果たしてからのお祝い金として保護者・OB・県民の方々、県内の幾つもの企業体からご厚志をいただいた。口コミとHPでの募集であったが、総額600万円近くの寄付・祝意金をいただいた。この紙面を借りて、お礼申し上げたい。

# 選手権に寄せて　選手コメント



サッカー部主将　DF　**阿部健人**（3年）

この度、全国高校サッカー選手権大会を24年ぶりに優勝することができました。大会を通して、たくさんの方々に支援してもらい、優勝という最高の結果で、恩返しすることができ、とても嬉しく思います。初の単独優勝を成し遂げられたのは、皆様の支援はもちろんのこと、今まで静岡学園に携わってきた偉大な先輩方が今の素晴らしい静岡学園をつくり上げてくれたからだと思います。サッカー部としても、自分たちよりも汗・水をたらし、夜中まで何十倍も努力をして、静学スタイルを築き上げてきて、それでも日本一に届かなかった先輩方の期待に応えることができて、何よりも嬉しいです。また、自分たちと3年間本気で正面から接し、生活からサッカーまで厳しく指導してくださった、監督・コーチ・スタッフには感謝でいっぱいです。こんなにも自分たちと本気になってくれる学校は静岡学園しかないと自分は思います。

自分は仲間にも恵まれたと思っています。みんながお互いに仲が良く、どんな時も支えてくれます。仲が良いというのも静岡学園の魅力的な一つのカラーでもあります。そんな仲間でなければ、優勝はできなかったです。自分をこんなにも成長させてくれて、濃い高校生活にしてくれた仲間にはありがとうの一言しかありません。最後になりますが、静岡学園サッカー部はこの優勝という結果をサッカー王国復活への第一歩として、静学スタイルでこれからも後輩たちが静岡県サッカーの発展に貢献できるように、精進していくので、どうか今後も引き続き応援よろしくお願いします！改めまして、本当にありがとうございました。

MF　**松村優太**（3年）

全国高校サッカー選手権大会は、自分にとっては人生初の全国大会でした。自分たちの代は県新人戦の決勝戦で負け、総体予選も決勝戦で負けていたので、選手権予選は並々ならぬ思いで臨みました。順調に勝ち上がり、初の全国大会の切符を掴めたのでホッとしましたし、とても嬉しかったです。全国大会では様々な経験をすることができました。一回戦でカズさんが激励に来てくれたのは、とても力になりました。二回戦、三回戦と勝っていくに連れてどんどん増えていく応援してくださる皆さんもとても力になりました。身の回りの物や、ホテルなど最高の環境で試合に集中できるようにしてくださったことにもとても感謝しています。そして何より、いままで共に切磋琢磨してきた仲間が、スタンドでたくさん応援してくれて、優勝後みんな泣いていて、それが一番感動的でした。感謝です。自分が一番感じたことは、選手権は人生が変わります。注目度も桁違いです。もちろん自分たちだけで優勝という最高の景色を見られたわけではないですが、後輩たちには、監督、スタッフ、応援してくれる全ての人の想いを背負って、何より自分たち自身が一番楽しんでまたこの舞台に立って欲しいと思います。支えてくださった方々に最高の形で応えることができて、本当に良かったです。感謝しています。ありがとうございました。

MF　**井堀二昭**（3年）

僕達は全国高校サッカー選手権大会で優勝することができました。この優勝は自分たちの力だけでなく、監督、コーチ、両親、学校の先生、生徒、そして静岡学園に携わってくれた全ての方々のおかげだと思っています。本当に感謝しています。僕は全国大会に出場するのは初めてなのでとても楽しみでした。僕はこの大会に出場する前までは控えの選手で、藤井選手が怪我をしてから出場するようになりました。だからこの大会は自分のためでもあるし、藤井選手の分まで必ず結果を残すことを意識して臨みました。そして優勝することができて、藤井選手の分まで頑張ることができたと思っています。そしてこの優勝は辛いときや苦しいときにチームみんなで助けあって乗り越えてきたからこその優勝だと思っています。そして僕がこの大舞台でプレーできたのは監督、コーチ、そして何より両親のおかげだと思っています。この大会で経験したこと、そしていろいろな方々への感謝を忘れずに、また新たなステージでプロサッカー選手にになるために日々努力していきたいです。

MF　**藤田悠介**（3年）

僕たちは全国高校サッカー選手権大会で優勝することができました。自分にとってはこれが人生初の全国大会でとても楽しみでした。最初の全国大会を優勝という形で終われて本当に良かったです。優勝したことによりコーチ陣や両親、応援してくださった一般生徒の方や地域の方々に少しは恩返しができたかなと思います。スタンドからの応援は本当に力になりました。優勝してスタンドを見たときベンチに入れなかったメンバーで泣いてる選手もいました。その時、いいメンバーと出会えて一緒に優勝できて良かったと思いました。応援してくださった方々には本当に感謝しています。

僕たちの代は例年と違って新人戦、インターハイと県で優勝することができませんでした。また、プリンスリーグでも思ったような成績が出せず、正直、不安や焦りもありました。しかしその分どの代にも負けないくらい選手権へ懸ける想いは強かったと思います。

今思うと新人戦、インターハイで負けて悔しい思いをしたからこそここまでこれたと思います。これが終わりではないと思うので、この経験を生かし、もっと成長してプロになるという夢を叶えたいと思います。

MF　**浅倉 廉**（3年）

自分は全国高校サッカー選手権大会に出場して優勝することを目標に日々練習してきました。

その中でチームとしても個人としても、とても成長できた高校生活となったと思います。それは辛い時やきつい時に多くの方々やチームメイトの助けがあったからだと思います。

今回の選手権を戦っていく中で一番感じたのは、多くの方のサポートや応援があるからこそチームのベスト、自分のベストを出せたのではないのかなということです。

全国優勝ができたのも、チーム全員で同じ目標に向かって切磋琢磨し合い、監督を始めとする多くの方々の助けがあったからだと思います。そしてチーム全員がその事に感謝の気持ちを忘れずに努力してきた事が、全国優勝へ繋がったのではないのかなと思います。

自分がこの3年間で学んだ事は、自分の周りには多くの方々のサポートがあり、その方々への感謝の気持ちを忘れずに日々の練習や試合に取り組む大切さ、チーム全員で同じ目標に向かって努力する楽しさや辛さ、目標を達成した時の嬉しさがどれだけかけがえのないものかという事です。

この貴重な経験や感じたことを、プロ選手になって活躍するという自分の夢に向かって活かしていきたいです。

FW　**加納 大**（2年）

私はこの全国高校サッカー選手権大会に出場し、様々な事を学び感じることができました。

私は県大会では全試合スターティングメンバーとして出場し、全国大会でも活躍する事を目指し努力していました。しかし、全国大会前の怪我により、一回戦から試合をピッチの外で見る時間が多くなりました。仲間がどんどん活躍していき、悔しい気持ちと嬉しい気持ちが混ざって複雑な感情でした。その中でも私は常に準備をし続け、前向きに気持ちをコントロールして、いつ出番が来ても活躍できるようにしていました。そして仲間のおかげで決勝の舞台でスターティングメンバーになることができ、点を決めて勝利に貢献することができました。きっと準備を怠っていたり、気持ちがネガティブになっていたらこのような結果は残せていなかったと思います。

準備を怠らないこと。そして仲間を信じること。この二つがプレーにとても影響し、勝敗にも関わってくることだと、私は今大会を通じてとても感じることができました。

# 静岡新聞掲載一覧 〈2019年11月～2020年1月掲載分〉

出典：静岡新聞社

1ページ掲載

11ページ掲載

令和元年（2019年）11月17日（日曜日）朝刊

令和元年（2019年）11月19日（火曜日） 朝刊 11ページ掲載

令和元年（2019年）12月20日（金曜日）
朝刊 22ページ掲載

令和2年（2020年）1月1日（水曜日） 朝刊 29ページ掲載

令和2年（2020年）1月3日（金曜日） 朝刊 11ページ掲載

1ページ掲載

令和2年（2020年）1月5日（日曜日）
朝刊 9ページ掲載

令和元年（2019年）12月28日（土曜日）朝刊 11ページ掲載

令和元年（2019年）12月30日（月曜日） 朝刊 9ページ掲載

7ページ掲載

令和2年（2020年）1月4日（土曜日） 朝刊

1ページ掲載

7ページ掲載

令和2年（2020年）1月6日（月曜日） 朝刊

# 静岡新聞 掲載一覧 〈2020年1月掲載分〉

出典：静岡新聞社

全国高校サッカー選手権 11日準決勝

## 静岡学園「一丸で決勝へ」

公開練習

令和2年（2020年）1月9日（木曜日）
朝刊 13ページ掲載

全国高校サッカー きょう準決勝 矢板中央戦

## 静学「大舞台、楽しむ」

令和2年（2020年）1月11日（土曜日）
朝刊 13ページ掲載

## 静学 県勢12年ぶり決勝

高校サッカー

## あす青森山田と激突

藤枝順心きょうV決戦

1ページ掲載

13ページ掲載

## 静学最後の最後に決勝PK

買いた「攻撃姿勢」主場で実る

0 0から歓喜 堅守の矢板中央撃破

エース初ゴール 松村の突破力

令和2年（2020年）1月12日（日曜日） 朝刊

全国高校サッカー

## 静岡学園 いざ決戦

きょう青森山田と決勝

王者に「真っ向勝負」

令和2年（2020年）1月13日（月曜日） 朝刊
11ページ掲載

## 静岡学園 日本一

全国高校サッカー

## 県勢24年ぶり

1ページ掲載

## 魅せた個人技 快進撃

2ページ掲載

令和2年（2020年）1月13日（月曜日） 号外

時の人

2ページ掲載

## 静学団結 驚異の逆転劇

技巧派集団に歓喜の時

王者の圧力はね返す

中谷、頂点導く決勝弾

中谷 値千金2ゴール

大舞台で主役に

攻撃陣に守備を強化

10ページ掲載

## 静岡学園 全国制覇

初の単独、県勢24年ぶり

青森山田を2点差逆転

王国復活の足掛かり

男女で頂点

1ページ掲載

## 静学スタイル 貫く

全国高校サッカー優勝

勝利よりも育成重視

応援席緑一色 3000人歓喜の涙

21ページ掲載

令和2年（2020年）1月14日（火曜日） 朝刊

高校サッカー全国大会 県勢男女V

## 静学スタイル 躍動

## 藤枝順心 光る堅守

令和2年（2020年）1月18日（土曜日） 朝刊 13ページ掲載

静　岡　　5年ぶり12度目　私　立

# 静岡学園

Shizuoka Gakuen

今季成績　プリンスリーグ東海2位（第15節現在）

## School Data

所 在 地：静岡市葵区東鷹匠町25
創　　立：1966年　　生 徒 数：1039（男子708）人
主な卒業生：石野卓球（ミュージシャン）、青木真也（総合格闘家）

## Club Data

創　　部：1967年
部 員 数：257（3年70、2年97、1年90）人
最高成績：1995年度選手権優勝、2011年度高校総体準優勝
主なOB：三浦知良、南雄太（ともにJ2横浜C）、大島僚太（J1川崎）
ユニホーム：（正）緑／白／緑　（副）白／緑／白
※ユニホームはシャツ／パンツ／ストッキングの色

## 伝統の個人技で王国復活へ

全国屈指のテクニカル軍団が5年ぶりに全国選手権に帰ってきた。かつてのサッカー王国も最近は4年連続初戦敗退中。だが、川口監督は「全国で頂点を目指す」と宣言。1995年度に南雄太（J2横浜C）ら"静学"の先輩たちが成し遂げて以来となる県勢優勝を狙う。

攻撃の軸はJ1鹿島内定のMF松村だ。50㍍走5秒8の俊足を生かし、右サイドからドリブル突破する。県大会では準決勝、決勝で得点を決め、改めてその実力を証明。松村にマークが集まっても、司令塔のMF浅倉がパスで好機を作り、FW加納とMF小山も積極的にシュートを放つ。富士市立戦では分厚い攻撃で、県大会決勝の最多タイとなる6得点を挙げた。

夏までは攻撃練習に特化していたが、9月下旬から守備を強化。攻守の切り替えやボール奪取を鍛え上げ、県大会は4戦1失点。指揮官が「コミュニケーション力は歴代でもトップクラス」と話すように、試合中に選手たちで修正できるのが強みだ。

⑧ MF 浅倉 廉
ボールを配球し、チャンスメークする司令塔

## 基本フォーメーション

## 監督

川口 修（かわぐち しゅう）

1973年6月30日生まれ、46歳。静岡学園卒業後、ブラジルに留学。Jリーグ平塚（現湘南）練習生、藤枝明誠コーチを経て、97年から母校コーチに就任。2009年から監督。

## 選手権への道のり

県大会成績

| | | | |
|---|---|---|---|
| 1　回　戦 | 3－0 | 焼津中央 |
| 準々決勝 | 2－0 | 飛龍 |
| 準　決　勝 | 2－0 | 浜松開誠館 |
| 決　　勝 | 6－1 | 富士市立 |

## 選手名鑑

名鑑の見方　①生年月日②出身都道府県③身長（㎝）/体重（㎏）④前所属チーム⑤代表歴　Cは主将

GK 1　北口 太陽（きたぐち たいよう）　3年
①2001.10.18②大阪府③174/65④大阪市ジュネッスFC

MF 2　田中 太晟（たなか たいせい）　3年
①2001.11.29②滋賀県③175/65④セゾンFC

DF 3　阿部 健人（あべ けんと）　3年　C
①2001.6.9②神奈川県③178/68④シュートFC

DF 4　田辺 秀斗（たなべ しゅうと）　2年
①2002.5.5②京都府③180/68④奈良YMCA⑤18年国体

DF 5　中谷 颯辰（なかたに そうしん）　3年
①2001.9.12②大阪府③178/64④大阪市ジュネッスFC

MF 6　権平 美樹（ごんだいら よしき）　3年
①2001.8.8②新潟県③167/55④静岡学園中

DF 7　徳永 誠也（とくなが せいや）　3年
①2001.11.17②愛知県③173/60④刈谷81FC

MF 8　浅倉 廉（あさくら れん）　3年
①2001.4.28②神奈川県③168/57④川崎フロンターレU15

FW 9　加納 大（かのう はる）　2年
①2002.9.13②静岡県③173/63④静岡学園中

MF 10　松村 優太（まつむら ゆうた）　3年
①2001.4.13②大阪府③173/68④東淀川FC⑤U17、18日本代表

MF 11　矢田 祥真（やた しょうま）　3年
①2001.5.29②和歌山県③173/60④大阪セゾン

FW 12　岩本 悠輝（いわもと ゆうき）　3年
①2001.12.16②大阪府③171/60④大阪市ジュネッスFC

DF 13　市川 聖也（いちかわ せいや）　2年
①2002.4.10②神奈川県③182/66④シュートFC

MF 14　小山 尚紀（こやま なおき）　3年
①2001.6.19②滋賀県③173/63④セゾンFC

DF 15　西谷 大世（にしたに たいせ）　3年
①2001.6.5②滋賀県③175/64④セゾンFC

MF 16　井堀 一昭（いほり かずあき）　3年
①2001.4.16②岡山県③171/62④Jフィールド津山

GK 17　野知 滉平（のち こうへい）　2年
①2002.04.26②静岡県③177/71④清水エスパルスJY

MF 18　藤田 悠介（ふじた ゆうすけ）　3年
①2001.5.25②滋賀県③170/59④セゾンFC

MF 19　草柳 祐介（くさやなぎ ゆうすけ）　3年
①2001.5.16②神奈川県③175/62④ロンドリーナ

MF 20　小泉 龍之介（こいずみ りゅうのすけ）　1年
①2003.9.4②埼玉県③173/63④ECジョガドール

MF 21　柿本 音王（かきもと ねお）　3年
①2001.7.13②新潟県③167/61④ボンジボーラ新潟

MF 22　岩野 寛太（いわの かんた）　3年
①2001.9.17②岡山県③168/60④Jフィールド津山

MF 23　清水 和馬（しみず かずま）　1年
①2003.6.13②静岡県③167/56④静岡学園中⑤19年国体

MF 24　渡辺 怜歩（わたなべ れいあ）　2年
①2003.2.6②静岡県③163/53④静岡学園中

GK 25　生嶋 健太郎（いくしま けんたろう）　1年
①2003.5.7②兵庫県③179/72④ヴィッセル神戸U15

FW 26　奥田 友惟（おくだ ゆうい）　3年
①2001.6.25②大阪府③174/67④千里丘FC

MF 27　藤井 皓也（ふじい こうや）　3年
①2001.8.29②愛知県③165/57④ラランジャ豊川

【注】チームの意向で27選手のみ掲載しております

※記事提供：「報知クラブ 2020年1月号 報知高校サッカー」
43ページ　報知新聞社

「孝友」第232号（令和2年3月1日発行）
発 行 者 学校法人 新静岡学園 静岡学園中学校・高等学校校長　鈴木啓之
題　　字 渡邊貴彦（毎日書道展審査員）
印　　刷 株式会社 サイラン　　編　　集 孝友編集委員会